

## Q4-2. 立野ダムは、阿蘇北向谷原始林などの自然環境に与える影響が大きいのではないのでしょうか。

- 立野ダム建設予定地周辺は「阿蘇くじゅう国立公園」内に位置しており、自然環境豊かな地域です。このため、できるだけ良好な環境の保全を図りつつ、ダム事業を実施することは重要であり、地域の豊かな自然環境と共生したダムづくりを目指して、専門家からなる「立野ダム環境保全検討委員会」を設立し、環境影響の予測や回避・低減措置等の検討を行っています。
- 阿蘇北向谷原始林については、立野ダムの建設工事による直接的な変化はありませんが、洪水時に一時的に立野ダム上流の水位が上がり、そのごく一部（阿蘇北向谷原始林全体 80.8ha のうち 4.7ha）が水に浸かる可能性があります。
- ただし、阿蘇北向谷原始林が水に浸かる時間は、昭和 28 年 6 月洪水や平成 24 年 7 月洪水でも 1 日以下と短いため、阿蘇北向谷原始林全体の植物（木本類や草本類）の生育状況に与える影響は小さいと考えています。（図－1）
- また、令和 6 年 1 月 15 日より開始した試験湛水においては、阿蘇北向谷原始林への影響を極力低減させるために、一般的な試験湛水（1 m/日以下で下降）よりも水位下降速度を速めて試験湛水を実施しました。今回の試験湛水で阿蘇北向谷原始林植生生育標高 EL. 225m 以上が連続して冠水した期間は 23 日間となり、試験湛水中断基準としていた 25 日間を下回りました。

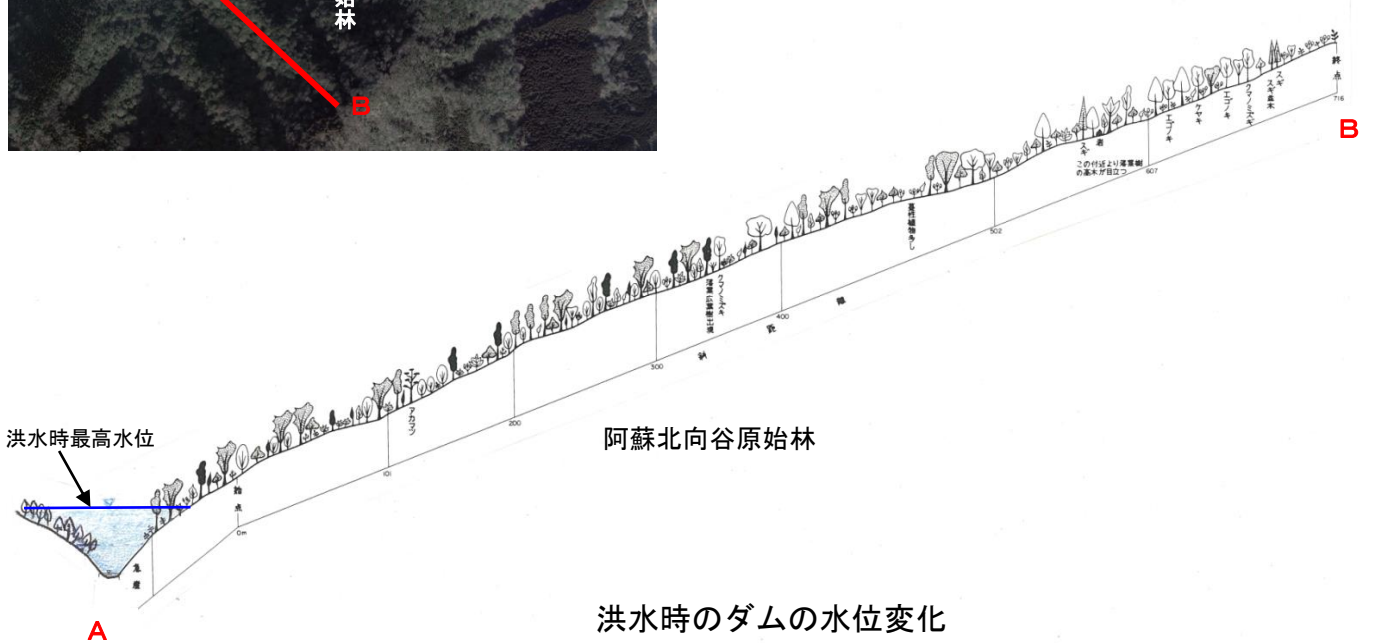
なお、試験湛水により「阿蘇北向谷原始林」が影響を受ける範囲は、原始林全体のうち4%程度（標高276m以下の主な群落に係る範囲）でありました。

○これまで、自然環境や動植物への影響を極力小さくするように配慮しながら建設事業を進めて参りましたが、管理移行後も自然環境や動植物への保全措置を継続しながら管理を行っていきます。

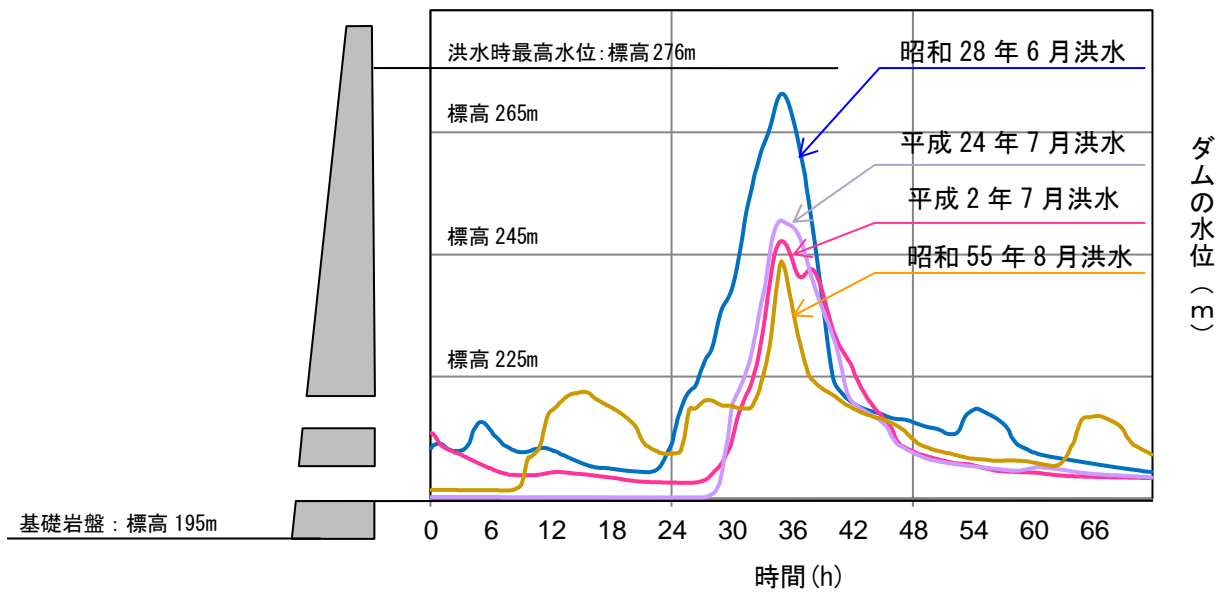
○詳しい資料については[こちら](#)に掲載しております。



北向山山頂  
(標高 796.5m)



洪水時のダムの水位変化



図－1 阿蘇北向谷原始林断面と洪水時の水位変化